

神社の社(十五)

『神社に住む動物』

ビジターセンター

片柳 茂生

武蔵御嶽神社の境内は、動物、鳥類そして植物の宝庫で、しかもそれらは登山道を歩いていては見ることができない珍しいものが多い。虎をはじめウサギに亀そして鹿、おまけに龍までいる。そう、これらは神社の建物や灯籠に施された彫刻なのである。

賽銭箱の前から見上げるとそこにはまず龍の彫刻が目飛び込んでくる。その上には想像の鳥、鳳凰が大きな翼を広げ、参拝に來た人たちを見下ろしている。龍の下には二匹の虎が左右で睨み合っている。

横に廻ってみると、そこには波の上で跳ねている白いウサギが二羽とチドリのような鳥がやはり二羽波間を飛んでいる。正面からは見ることができないが、大きな注連縄の裏にはカメが泳いでいる姿



が彫られている。

と、ここまでは何がいるのか容易に判断できるのだが、問題は向拝の柱に取り付けられている彫刻である。これは何とも不可思議な動物であり、ゾウともバクともとれるのだ。

我がビジターセンターの有能な？解説員の間でも意見がふたつに分かれた。長い鼻と、口から二本の牙が出ている姿はゾウを想像させる。しかし、耳は大きなものではなく、牛のような小さい耳がついている。これは決定的な違いである。

それではバクならばどうなるだろう。バクの蹄は四つ（前足だけ、後ろ足は三つ）なのに対して彫刻のそれは五つある。バクの牙や鼻は彫刻ほど長くはない。となるとゾウとバクどちらも当てはまらないことになってしまう。

守宮・家守・井守

大きな家の庭にはよく祠がある。御師が大い真神の御祈願でその扉を開けると、時々その中にトカゲに似て暗灰色、指先に吸盤のついた十二cm位の爬虫類を見ることがあります。夜間壁や天井で昆虫を捕食することから壁虎と俳句の夏の季語にもなっていますが、漢字では守宮と書きます。



イモリ(両生類) ヤモリ(爬虫類) 井守はイモリと読み、淡水にすみ遊泳に適するよう四肢は短く尾が大きく偏平で、腹が赤く黒い斑点がある両生類。お宮を守るので守宮、家を守るので家守、井守は昔井戸の中にもいたのでしょね。(片柳至弘)

同じヤモリでも家守は、家の番人のことで、江戸時代地主に代って土地の管理や地代の徴収

そこで広辞苑でバクをひいてみた。それによると、形は熊、鼻は象、目は犀、尾は牛、足は虎に似るといふ中国での想像上の動物で、名は猯といふ悪夢を食べる動物とある。そう、この不可思議な動物は想像上の動物『猯』であった。神社には、この他にもたくさん動物や鳥があちこちに隠れてあなたを見ている。参拝の際にそれらを観察してみてはどうだろう。

あとがき

西暦では二〇〇一年まで三月となりました。本年も広報担当五名の内三名が替わり、二十一世紀に向け新たな気持ちで、お届けいたしたいと思ひます。三橋健先生、山根堅一様には、玉稿を賜り有り難うございました。

平成十二年九月二十九日発行 (年二回発行・非売品) 編集 武蔵御嶽神社 印刷 楳成和印刷

表紙・四頁写真 鈴木新吾